vinetur

Wine Australia、ぶどう畑とワイナリー向けに3,500万豪ドルの研究助成公募を開始

持続可能性、効率性、製品イノベーションに関するプロジェクトを対象に、共同投資プログラムの提案を12月23日まで募集する

2026年11月18日（水）



Wine Australiaは11月18日水曜日、国内のワイン・ぶどう産業を対象とする研究・イノベーションプロジェクトの新たな競争的助成公募を開始した。従来の賦課金による資金調達にとどまらず、業界投資を拡大する5カ年の取り組みの一環となる。

今回の公募は、Australian Wine Future Fund内の2つの資金枠の一つであるResearch & Innovation Fund（RIF）を対象とする。Wine Australiaによると、同基金全体では、連邦政府の支援、州政府の助成金、パートナーの拠出、民間投資を組み合わせ、5年間で5,000万豪ドルの資金調達を目指す。このうちRIFは、ぶどう畑の生産性、製品イノベーション、持続可能性、生産効率の向上に実用的な成果をもたらす共同設計プロジェクトに、3,500万豪ドルを投じることを目指して

いる。

Wine Australiaによると、この基金は業界が直面する主な課題に対応するプロジェクトを加速させることを目的としている。同機関は、賦課金収入の減少を受け、ぶどう栽培者やワインメーカーの長期的な生産性、レジリエンス、環境面の実績を強化する技術やプロジェクトに、より多くの資金を呼び込むため、Australian Wine Future Fundを2026年初めに設立したと説明した。

最高経営責任者のMartin Coleは、今回の公募は業界に直接的な価値をもたらすプロジェクトを見極めることを目的としていると述べた。Wine Australiaが発表したコメントでColeは、「業界に変化をもたらすプロジェクトを見つけ、資金を提供する」ために関心表明の募集を始めるとし、応募資格のある申請者に対し、同機関のウェブサイトで基準を確認するよう呼びかけた。

Research & Innovation Fundは共同投資を基本とする。Wine Australiaによると、連邦政府の資金を活用して承認プロジェクトごとに追加資金を呼び込み、研究機関、民間企業、州政府、業界団体の拠出も組み合わせる。この仕組みは、公的資金をより有効に活用すると同時に、商業的なぶどう畑やワイナリーで導入できる取り組みを支援するために設計されているという。

Australian Wine Future Fundのもう一つの資金枠はVenture Investments Portfolioで、5年間で1,500万豪ドルの投資を目標とする。Wine Australiaによると、このポートフォリオはTenacious Venturesとの提携を通じて民間資本を呼び込み、イノベーションの不足分に対応することを目的としている。同機関はこの枠組みのもと、賦課金以外の資金から250万豪ドルを拠出し、既存の資金や他の投資家の資金と合わせる計画だ。

同基金への応募プロジェクトは、Wine AustraliaのStrategic Plan for 2025－30およびOne Grape & Wine Sector Planに沿う必要がある。同機関によると、これらの計画では、イノベーション、持続可能性、新技術の導入が、業界の将来的な成長、収益性、国際競争力の中核に位置づけられている。

Wine Australiaは、Research & Innovation Fundを通じてすでに支援を受けている複数のプロジェクトも紹介した。Wine Victoriaと連携し、栽培者やワインメーカーを支援する取り組みのほか、Wines of Western Australia、Western Australian Department of Primary Industries and Regional Development、Wine Australiaの連携による同州の持続可能性、収益性、競争力の向上がある。また、Vinehealth Australiaとの共同投資により、南オーストラリア州のVinehealth Vineyard Registerを近代化し、National Vineyard Registerと連携させる取り組み、Australian Wine Research Instituteとの戦略的研究協定、Grapevine phylloxeraの監視・管理に向けた新たなツールを開発するAgriculture Victoriaとの取り組みも含まれる。

今回の関心表明の募集は12月23日まで受け付ける。Wine Australiaによると、今回の応募案件は2027年初めに審査される見込みだ。その後は年間を通じて関心表明を受け付け、四半期ごとに審査を行う計画という。

今回の動きは、研究機関やぶどう畑の運営者にとどまらない影響をもたらす可能性がある。オーストラリアは世界有数のワイン生産・輸出国であり、ぶどう畑の健全性、生産効率、持続可能性への資金が拡充されれば、ぶどうの供給を支え、ワイナリーの操業上の負担を軽減し、市場や環境の変化に適応する業界の力を高めることにつながる可能性がある。飲料業界全体にとっては、ワイン生

産者による新製品、栽培方法、加工技術への投資にも、いずれ影響する可能性がある。

今回の資金拡充は、業界賦課金を通じて提供されてきた投資の一部を、より幅広い公的・民間資本で補おうとするオーストラリアのワイン関連機関の取り組みも示している。共同投資と実用的な成果を支援の条件とすることで、Wine Australiaは今後の研究資金について、科学的価値だけでなく、ぶどう畑やワイナリー全体で導入できるかどうかも評価基準になると示している。

申請者は、提案が国内業界計画の戦略的優先事項に合致し、共同資金拠出の仕組みのもとでパートナーを確保できることを示す必要がある。Wine Australiaによると、応募資格や申請手続きの詳細は同機関のウェブサイトで確認できる。